平成24年度

おおえの
文化財だより

おおえの文化財だより
●文化財保護の取組み① 重要文化的景観選定「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」
●文化財保護の取組み② 史跡左沢楯山城跡の発掘調査
●文化財保護トピックス（平成24年度の出来事を紹介しています）

町指定文化財 大江町立歴史民俗資料館

大江町の十郎畑にあった斎藤半助家住宅と土蔵。母屋は文政６年（1823）の建築であることが棟札に明記されています。せがい造・くらかけぐし・広間田字形（変形）の間取りなどに特徴があり、名主の風格がしのばれる養蚕農家の住宅です。土蔵は享保期（1716～1736）に建てられたとみられます。手斧削りの太い栗材の柱や中央の真柱が特に目立つ米蔵で、後には桑置場や養蚕などに利用されたようです。青苧、漆、ろうで栄えた山間部豪農の土蔵として重要な意義をもっています。母屋・蔵ともに昭和53年に現在地に移築され、翌年8月30日に指定されました。

文化財保護の取組み①

「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」

重要文化的景観に選定！

平成25年３月27日、大江町左沢周辺の「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」が、県内初となる国の重要文化的景観に選定されました。全国で35番目、東北地方では３番目の選定です。

水・陸の交通が交差する地理的条件に恵まれた左沢には、中世には大規模な山城である左沢楯山城が築かれ、それが廃された江戸時代には小漆川城とその城下町が築かれて、現在の町の原形が形作られました。また、江戸時代には、最上川舟運と海運航路である西廻り航路を利用した、上方や江戸まで通じる流通・往来が形成され、左沢では人や物が行き来し、河岸が発達し町場に繁栄をもたらしました。そのため、今も左沢の内町や横町には、城下町として造られた短冊状の地割に商店や土蔵が分布し、原町では元造り酒屋などの店蔵が通り沿いに立ち並びます。最上川沿いでは、川へ降りる道や舟屋敷跡がみられ、舟運時代の名残を受け継ぐ町並みが残っています。さらに左沢の舟乗りの信仰を集めた波切不動や交通の変化を物語る旧最上橋、山城から景勝地に転じた楯山公園（日本一公園）など、左沢の町場には特徴的な要素が点在しています。

町教育委員会では、この優れた景観の価値を町民が共有し、後世に伝えていくため、平成20年度に文化的景観保護事業に着手し、歴史や建物、民俗芸能など生活文化に係る調査をおこなってきました。

◀元屋敷地内の大瀧不動尊。舟運で栄えた往時から舟乗りの信仰を集め、「波切不動」の呼称で知られています。

町では、このたびの国選定を受け、文化的景観の歴史的・文化的価値に基づき、美しい町並みづくりや商業・観光の振興を図るとともに、地域の誇りと愛着を育むための情報発信や教育分野における取組みを進める予定です。

（写真上）原町通りの造り酒屋（会津屋）の土蔵
（写真下）桜町渡船場への道（米沢舟屋敷跡）

重要文化的景観選定記念シンポジウム開催

～ 地域の魅力を守り・伝え・活かす ～

３月27日の国選定を記念し、３月30日、重要文化的景観選定記念シンポジウムが東地区公民館で開催されました（山形県教育委員会共催）。

大江のひなまつりに合わせて開催されたシンポジウムのタイトルは「地域の魅力を守り・伝え・活かす」。約200人の来場者があり、その関心の高さがうかがえました。

シンポジウムは、正調最上川舟唄保存会のみなさんによる最上川舟運の繁栄と河岸の賑わいを物語る「百目木茶屋唄」と「百目木甚句」の披露で幕を開けました。続いて、国選定へ向けて様々な助言をいただいた文化庁記念物課（文化的景観部門）の鈴木地平氏が「文化的景観を活かした地域づくり」と題して基調講演し、東北芸術工科大学の志村直愛教授をコーディネーターに、鈴木氏、庄司俊夫氏（左澤中央通り商店街会長）、石川博資氏（大江町観光ボランティアガイドの会会長）、山家貴代氏（前左沢高等学校長）をパネリストに迎えたパネルディスカッション「地域の魅力を“守り・伝え・活かす”ために…」がおこなわれました。

基調講演では、「これまでの来し方を見定め、今の在り方を踏まえて、行く末を考えるべし」という提言がなされました。また、パネルディスカッションでは、パネリストそれぞれの立場から大江町の景観に対する熱い想いが語られ、町民各世代で理解を深め、この景観を次代につないでいくことの大切さが訴えかけられました。

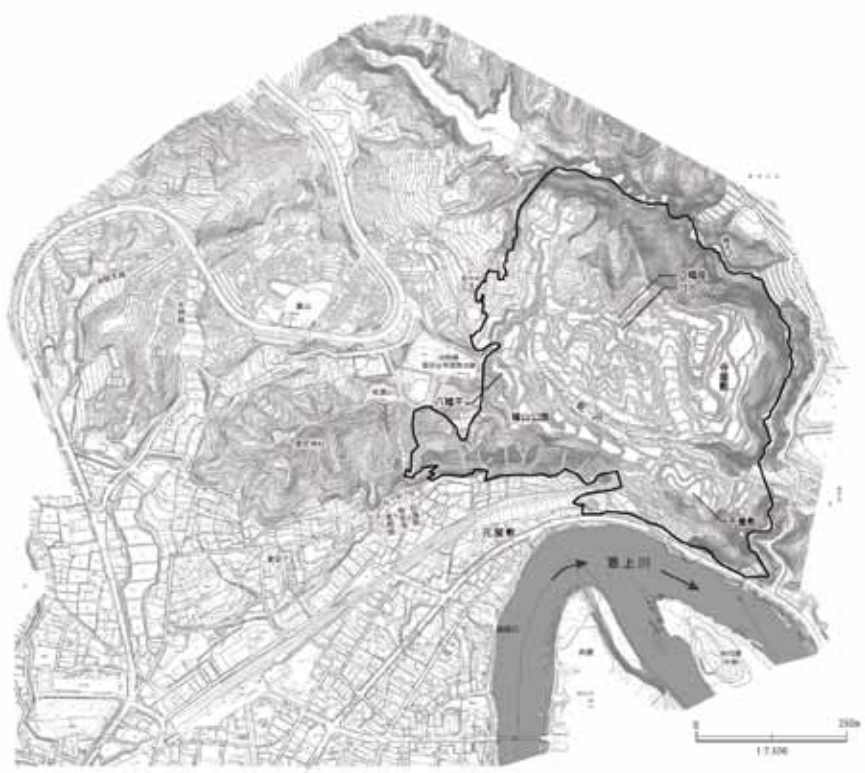
鈴木技官による基調講演

（写真上）コーディネーターの志村教授と町民３名を含むパネリストのみなさん。
（写真左）熱心に聞き入る来場者。

文化財保護の取組み②

史跡 左沢楯山城跡の発掘調査

平成21年２月に国の文化財に指定された史跡左沢楯山城跡。町教育委員会では、指定範囲（約25ha）の公有化をはじめ、史跡としての価値の保存を前提としたうえで、『史跡左沢楯山城跡保存整備基本構想』（平成24年３月策定）に基づき、「町の宝」として利活用を図るための史跡の保存・整備を進めています。



（図）左沢楯山城跡縄張図　（写真）左沢楯山城跡航空写真

平成23年度からの４か年計画で史跡の保存整備のための発掘調査を再開していますが、24年度も８月から10月までの３か月にわたり、左沢楯山城跡の発掘調査をおこないました。

24年度は、八幡座地区の山頂部とその南側の谷部分、千畳敷地区の堀切周辺、八幡平地区の楯山公園の４か所の発掘調査をおこないました。

10月２日に史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会から現地でご指導をいただきました。10月６日に開催した現地説明会には32名が参加。発掘調査の成果説明に真剣に耳を傾けてくださいました。

史跡左沢楯山城跡の整備について、平成25年度からは楯山公園部分の整備に着手する予定です。また、数年かけて旧来の地形を活かした整備工事と併せ、転落防止施設の設置などをおこなうことにしています。

八幡座

①史跡で最も高い場所（標高222.13m）にあたる八幡座は、今回の調査で2間×2間の建物2棟の柱の跡が確認されました。建物の形や所在地から、櫓（やぐら）であった可能性が考えられます。

また、柵列（さくれつ）跡、虎口（こぐち）（出入口）と考えられる遺構も確認されました。

写真は、10月29日に開催された放課後子ども教室「自然体験塾～楯山城発掘現場を見に行こう～」の時のもの。子どもたちが手を広げ、建物跡の大きさを表しています。

八幡座の南側谷部分

堀切

楯山公園

現地説明会（10/6）

②八幡座南側の谷部分では、溝の底に石が並ぶ遺構が確認されました。
③蛇沢地区では溝状の遺構が確認されました。城の尾根を東西に分ける堀切と考えられます。
④楯山公園では、工事予定箇所の昭和以降の盛り土や旧地形の確認をおこないました。
⑤⑥10月6日の現地説明会では、発掘された遺構や遺物についての説明がおこなわれました。

平成２４年度

大江町内 文化財保護トピックス

文化的景観シンポジウム「文化的景観を活かした地域づくり」の開催

事例発表の様子

平成24年11月30日、文化的景観シンポジウム「文化的景観を活かした地域づくり」が東地区公民館で開催されました（山形県教育委員会主催）。入間田宣夫氏（東北芸術工科大学大学院教授）による「文化的景観と最上川、そして地域づくり」と題した基調講演のほか、石津文雄氏（針江生水の郷委員会会長代行）による「針江生水の郷委員会の取り組み」などの事例が発表されました。

文化遺産シンポジウム「歴史の息吹を感じる」の開催

東北芸術工科大学・文化財保存修復研究センターでは、文化遺産（仏像・書画・建物など）を対象に、地域住民などと連携して保護活動をおこなうことで、地域の文化力の向上に貢献することを目的に、平成22年度から５カ年間の研究事業を実施しています。

平成24年12月22日、文化遺産シンポジウム「歴史の息吹を感じる」が東地区公民館で開催されました。林家仏師一門を中心とした造仏活動や、小清地区の茅葺住宅の調査からわかった住生活にみる地域文化の変遷、地域文化遺産の現状と保護対策についての研究が報告されました。

御免町囃子座保存会が「ふるさと塾こどもフェスティバル2012」に出演

御免町囃子座保存会の演奏

小学生から高齢者までが一緒になって活動を展開し、演奏技術の継承に努めているとして、平成23年度に「山形ふるさと塾」村山地域優秀賞を受賞した御免町囃子座保存会が、平成24年10月14日、尾花沢市文化体育施設サルナートでの「ふるさと塾こどもフェスティバル2012」に出演しました。

長畑遺跡発掘調査

本郷東小学校児童の見学

現地説明会

平成24年７月９日から23日の間、柳川地区の長畑遺跡（縄文時代晩期）の発掘調査が実施されました。東京大学大学院の福田正宏准教授率いる考古学研究室チームが縄文時代の生活を調査する目的でおこないました。竪穴式住居などの痕跡を確認することはできませんでしたが、注口土器、皿の類、石器、石棒が出土しました。７月22日の現地説明会には地域住民などが集まり、出土品や遺跡全体の特徴についての説明を熱心に聞いていました。

文化財等の修復

修理前の状況

① 県指定文化財「神代カヤ」修復

樹齢約1500年といわれる東北最大のカヤの木「神代カヤ」（県指定文化財）で雪による幹折れが発生したため、県及び町の補助を活用した修復がおこなわれました。２年続けての大雪による被害を受けたことから、支柱やワイヤーを追加して積雪に備えました。

② 町指定文化財「御戸帳（おとちょう）」修復

修復の様子

町の文化財に追加指定した「御戸帳」12点を東北芸術工科大学に委託し修復をおこないました。修復した御戸帳は、今後歴史民俗資料館で展示する予定です。

③ 町指定保存木「赤祇春日神社境内のイチョウ」修復

枝打ち作業の様子

町内にある樹木のうち、後世に残していきたい樹木を保護するため、平成17年に大江町保存木に関する規程を設けています。平成18年２月に指定した「赤祇春日神社境内のイチョウ」（橋上地区）は生育上支障がある状況となったため、町の補助を受け保護事業に取り組みました。

④ 地名や文化財等を示す標柱の修理

大江町内には、地名や遺跡を示す標柱が51基建てられており、町教育委員会が管理しています。24年度は、雪害により破損した熊野神社（伏熊）の参道階段脇の「青苧権現」と「稚児道」の標柱を修理しました。

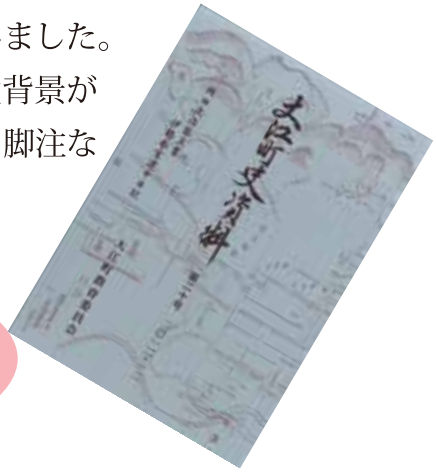
修理後の状況

町史資料第20号

「岡田文治家文書 伊勢参宮道中日記」発行

明治9年に伊勢参りに出かけた岡田幸助（のちに富士屋五代目岡田文治を襲名）一行の道中を記録した日記を町史資料として刊行しました。

明治に改元されたものの、江戸時代の名残が色濃く残る時代背景が伝わる内容です。資料本文は、原文、解読文の他、日付・行程・脚注などを加え、道中を追体験できるようにまとめています。



規格／B5判、154頁
価格／1,000円
取扱い／大江町中央公民館、井筒屋書店㈲
お問合せ／大江町教育委員会　教育文化課 歴史文化係（中央公民館内）
TEL:0237-62-3666

文化財こぼれ話

藤田の窯跡

昭和50年、特別養護老人ホーム大寿荘の建設のため、取付道路の工事で掘削していたところ、窯跡と多数の須恵器（青灰色で硬い土器）片が出土しました。同年８月の緊急発掘調査で、道路脇に３基、高台部分に３基、計６基の窯跡が確認されました。道路脇の３基のうち２基は窯の本体がかなり破壊されていましたが、残る１基の発掘によって粘土を盛って造られた半地下式無段登り窯であることがわかりました。大きさは長さ3.8m、幅1.2m～1.3mと推定されています。

出土した須恵器は、甕（かめ）、坏（つき）（飲食物を盛る器で、碗より浅く皿より深いもの）、高台付坏（こうだいつき）、壺（つぼ）などで、坏がもっとも多く見つかりました。

藤田の窯跡は、９世紀中頃のものとみられていますが、平野から丘陵に地形が変わる場所にあたり、付近からは質の良い粘土が取れます。

田植踊り

田植踊りは東北の民俗芸能で、山形県では村山地方や最上地方に多く伝えられています。

土地や人々の繁栄、息災を祈願する儀礼として、季節の折々に地域の祭りがおこなわれてきました。農耕生活が主体であった日本では、穀物の豊穣を祈願予祝する祭儀がおこなわれており、田の土ならしから稲の収穫にいたる稲作の模様を、歌としぐさ、踊りなどで表現し、無事収穫を祈るものが田植踊りといわれています。

大江町内には、道海、楢山、小見地区に保存会があり、田植踊りが継承されています。いつまでも残したい民俗芸能であり、日本の原風景でもあります。

小見田植踊保存会

おおえの文化財だより　平成25年3月　発行／大江町教育委員会　大江町大字本郷丁373-1　TEL 0237-62-3666
印刷／株式会社　若月印刷